

# LA WORLD 018

グローバル  
ランドスケープ通信  
vol.18

## Zeist Viten waterwink1e park OKRA Landschapsarchitecten bv



飲料水を得にくいオランダならではのインフラの1つ、遊水池ならぬ遊水砂地。住宅地の真ん中に位置するため、この遊水砂地が南北のアクセスを妨げていた。遊水砂地としての集水機能を失うことなく、南北のアクセスの改善とレクリエーション機能を最小限整備することで公園化している。シンプルなデザインだからこそ、明確にインフラ機能とレクリエーション機能の双方が成立したデザインとなっている。



# 公園化による 開放された インフラ

オランダのまちほどのまちもとても小さくコンパクト。ユトレヒトのまちを10分も走るとそこには、羊と牛がのんびりと芝生の上で寝そべっている。のんびりとしてオランダらしい風景を抜けた先に、ゼイストというまちがある。この公園のあるゼイスト市は、ユトレヒトの東に位置しユトレヒトからドイツへのびる街道沿いの別荘地である。この公園はこのまちのへりの新興住宅地の中にある。



水みちを表出させるディテール



こどもの遊び場

この公園はいたってシンプルであるが、それもそのはずで大部分を占める芝生の地下には大きな集水池がある。オランダは、3つの国際河川の下流部に位置し水源に乏しいため、近年は雨水をこうした砂地に集水して飲料水を得ており、地下集水池は水道インフラ施設として重要となっている。そのインフラ機能を担保しながらも、人の利用を可能とする最小限のデザインがなされている。

地下への集水を目的としているため、公園全体は大きなボウル型の形をしており、敷地中央で雨水を集める仕組みになっている。そのボウル型の形を横切るようにメインのプロムナードが通っている。メインのプロムナードは、コンクリート平板をおくだけの単純なものであるが、パイプにはあちこち小さな掘り込みがされており、雨が降ったあとには、その模様が浮かび上がり、雨の存在を示す。

この集水地を公園化するプロジェクトであるが、公園化にあたっては、近隣住民から従前はなかった南北を貫通するプロムナードの整備が求められていた。そのため、南北に抜けるプロムナードがこの公園の骨格となっている。この南北のプロムナードはボウル型したランドフォームに対して、弧を描いたゆるやかなカーブを描く園路形をしており、弧の線形とともに歩

きながら徐々に変わる風景を楽しむことができる。住宅地内においておおらかで広々とした空間を感じさせ、非常に気持ちいい空間である。

メインプロムナードの弧の内側は森となっており、様々な遊具が点在している。ここでは、公園に隣接する小学校の生徒の校庭としても使われているようで、こうした遊具が子供たちの格好の遊び場となっている。また、公園施工時には、多くの樹木が小学校の生徒によって植樹された。

公園のほとんどは森と芝生だけであり、繊細にデザインされている部分はほとんどないが、マスタープランとして強く掲げられていた、まちの南北をつなげている弧形のプロムナードが、公園の骨格として強く印象に残った。また、南北のまちをつなげ、隣接する小学校との連携を深めることで、今まで入ることのできなかった場所がコミュニティ拠点に変わったというのは実におもしろい。

一般的に人が入ることを許容しないインフラ施設において、囲いを解き放ち、人の利用を可能とするランドスケープへの転換という意味で、このプロジェクトの示唆するところは大きい。

(取材：大野 暁彦)

## info

**Address:** Javalaan 43  
3705 Zeist, Utrecht  
The Netherlands

**Access:** ユトレヒト CS 駅 Busstation Zuid より  
バス 53 番にて Nepveulaan 下車  
徒歩 5 分

**Hours:** 24 時間

**Fee:** 入場無料

**Map:**

